

教団新報

定 価 1 部 144 円 (本 体 133 円 + 共 206 円)
予約購読料 1 年分 千 共 5,150 円
紙代のみ 3,600 円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
一時移転先 169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18
電話 03 (3202) 0546、FAX03 (3207) 3918
URL http://uccj.org
発行人 長 崎 哲 夫
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし



秋田桜教会 (奥羽教区秋田地区)

メッセージ

立ち上がる、 何度でも

ルカによる福音書 5 章 27 節～32 節



雲然俊美

立ち上がったレビ

収税所に座っていた徴税人のレビは主イエスから「わたしに従いなさい」と呼びかけられ、立ち上がった。レビは主の呼びかけに応えて、自分の働きの中から、自分が自分の居場所としていた所から立ち上がったのです。そして、レビはさっそうと主イエスをお迎えして宴会をもちました。ヨハネの黙

示録にこのようにあります。「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう」(3 章 20 節)。レビはたしかに心の戸を開いて主イエスをお迎えしたのである。その牧師は、息子さんの

外からの呼びかけ

以前、全国で共に説教の学びをしている交わりの中で、お子さんが発達障がいをもっておられる牧師の書いた文章を読みました。その牧師は、息子さんの

心の中で立ち上がる

もちろん、そうは言っても、この世のさまざまな力によって押さえつけられ、とても立ち上がることなどできないということもあります。そして、立ち上がるという意欲さえ失ってしまふようなこともあるでしょう。

罪人を招くため

ある教会のことです。男の子が母親と一緒に礼拝に来たけれども、その子はずっと活発な子で、ちょっとした間もじっとしていられず、すぐにイスの上に立ち上がってしまったというのです。母親に「座りなさい」と注意されて一旦座るのですが、また、立ち上がる。そのようなことを何回か繰り返して、母親はとつとつ

とを嘆いたりします。さらに、「何をやってもムダ…」「どうせできない…」といった思いにとらわれ、心も体も縮こまってしまします。何かをする前から、自分で「できない」と決めつけてしまい、座りこんでしまふのです。そのような時、自分の決

意や努力、あるいはがんばりで立ち上がる人もいることでしょう。けれども、自分のがんばりには限りがあります。私たちが本当に立ち上がる力、私たちが自身の中からではなく、外から与えられるものです。自分の外からの呼びかけや働きかけ、あるいは、支えによって私たちは立ち上がるのです。

でも、確かに働いていくのだ、そう思ったんです。この牧師は、まさに外からの声を聞き、それによって立ち上がったのです。振り返りますと、私自身、今から 38 年前、学生運動後

とは、その男の子のように「心の中で立ち上がる」ことではないでしょうか。今の自分の状態や自分が置かれている状況を受け容れるけれども、そこでうずくまっているのではなく、そのような自分に対して、神さ

まが与えてくださる務めや役割が知られることを祈り求めることです。それが、体は思うようにならなくても、自分の心の中では立ち上がるということであると思うのです。

めをもって主の招きに応えようとしているかを自らに深く問わなければなりません。

主の復活の命に生きる

レビは立ち上がりました。この「立ち上がる」との言葉は、主イエスの復活を表わす言葉としても用いられています(ルカ 24 章 7、46 節ほか)。レビが立

ち上がったということは、それまでの人生から、主の復活の命の中を新しく生きる者とされたということです。私たちがまた、主の呼び

かけによって立ち上がらせていただきましょう。うずくまったり、座りこんでしまったりすることがあっても立ち上がるのです。何度でも。主の呼びかけに応えて。

(第 39 総会期教団総会書記・秋田桜教会牧師)

▼第38総会期教師検定委員会▲

15 年春季試験、信濃町教会を会場に

第38総会期第10回教師検定委員会が、1月20日～21日、教団会議室Bにおいて、委員7名全員の出席によって行われた。

また公表することはできないが、合格点に達していなレボートには、再提出が求められることになった。続けて、筆記試験問題の作成が行われた。

町教会（東京教区）を借りて行われる。それに伴う打ち合わせと準備が、いつもより入念に行われた。また、今回の試験から、教師検定規則3条6号対象者の第1年、第2年（いわゆる「CI、CIIコース受験志願者」）の面接試験を初日に行うことにした。その手順が話し合われ、決定した。

また、継続審議でもあった教師検定規則6条③の解釈を巡っての議論がなされた。その結果、規則の主旨（鷹澤 匠報）

▼会館問題特別委員会▲

概算目論見、2億7千万円の内容確認

第39総会期第2回会館問題特別委員会は、1月22日開催された。

本委員会は前期常議員会決定及び前期11回に亘る協議内容を確認し、委員構成は若干入れ替わった。

その目論見書は、会館管理組合工事委員会が10月1日付基本設計をヴォーリス社に依頼した内容に基づき作成されたものである。

本委員会が重視した点は、2013年10月2日付概算目論見書金額5億9千9万円とこの度の2億7千万円との金額および内容の違いについてである（百万以

2014年12月15日に39総会期教団救援対策本部第1回（通算第35回）会議、2015年1月20日に第2回（通算第36回）会議を教団会議室にて開催した。

39総会期最初の会議では、第1回常議員会において選出された委員（石橋秀雄、佐々木美知夫、雲然俊美、佐久間文雄、真壁巖、藤掛順一、高橋和人、朝岡瑞子、岡本知之）による組織をし、石橋本部長、佐々木副本部長、雲然書記を承認した。また、委員の役割分担として、佐久間委員が財務、真壁委員が広報、岡本委員が放射能問題関連の課題を担当することとした。出席者については、被災三教区議長のほかは、会議ごとに確認することとした。

続いて、救援対策室委員として、佐々木副本部長（室長）、高橋委員、真壁委員、佐久間委員を選出した。続いて募金状況として、1月20日現在で、国内募金の総額が9億3749万2962円、海外からの献金の総額が3億7221万9644円となっていることが報告された。

救援対策室からは、会館・牧師館再建復興支援・貸付執行状況、こひつじキャンプ開催報告・計画、被災地におけるクリスマス会や支援演奏会などの集会開催等の報告がなされた。被災教区からは、被災教会の再建復興状況、クリスマス諸集会など現在の活動状況、ボランティア受け入れと活動状況、甲狀腺検査などの放射能問題対策支援

▼宗教改革500周年記念事業準備委員会▲

伝道のため伝統の確認と広く教会の一致を

1月20日、教団会議室で第1回宗教改革500周年記念事業準備委員会が行われた。

冒頭、石橋秀雄教団総会議長によりエフソの信徒への手紙第2章1節以下が朗読され、ただ恵みによって救われた身であることを共に感謝しつつ委員会を始めた。

委員は石橋総会議長、岡村恒（委員長）、杉森耀子（書記）、小橋孝一、中嶋曉彦の5名。はじめに記念事業全体の方向性について確認した。

宗教改革500周年の特別な機会に、①日本基督教団が宗教改革の福音主義教会の伝統に連なる教会であることを確認し、信仰の一年大会、信徒大会などのプ

冒頭、石橋秀雄教団総会議長によりエフソの信徒への手紙第2章1節以下が朗読され、ただ恵みによって救われた身であることを共に感謝しつつ委員会を始めた。

委員は石橋総会議長、岡村恒（委員長）、杉森耀子（書記）、小橋孝一、中嶋曉彦の5名。はじめに記念事業全体の方向性について確認した。

宗教改革500周年の特別な機会に、①日本基督教団が宗教改革の福音主義教会の伝統に連なる教会であることを確認し、信仰の一年大会、信徒大会などのプ

また、教団内を中心にとども大会、中高生大会、青年大会、信徒大会などのプ

宗教改革500周年記念の2017年が、福音主義教会に限らず、日本及び世界のキリスト教会の伝道がいよいよ前進する新しい出発の年となるよう祈りつつ、準備を進めていきたい。（岡村 恒報）

宗教改革500周年記念の2017年が、福音主義教会に限らず、日本及び世界のキリスト教会の伝道がいよいよ前進する新しい出発の年となるよう祈りつつ、準備を進めていきたい。（岡村 恒報）



上段左から、中嶋、杉森書記、長崎哲夫総幹事
下段左から、小橋、石橋、岡村委員長



耐震・改修工事を待つ（本年 2 月撮影）

荒野声

寒くても泳げる温水プールに子供と一緒に時折泳ぎに行く。久しぶりに行った

ときのこと、しばらく泳ぎ休憩時間になってプールサイドに上がろうとしてよろけてしまった。自分の重さに思わずよろけてしまったのである。水に浮遊し軽々となっていた体重が水から上がり急に重くなつて足腰が耐え切れなかった。情けなかった。増えた体重を減らし、座り仕事ばかりで弱っている足腰を鍛える必要に改めて気付かされた。自分がどれほどの重さを負っているかに気がかされるのは大切だ。

母教会の外壁に掲げられていた集会案内の看板に疲れた者、重荷を負う者に呼びかけられる主の言葉が記されてあった。洗礼前の求道の間も、洗礼後も礼拝に行く毎に主の呼びかけを聞いた。はじめ、重荷は前週に会社で十分に果たせなかった責任や、ちとも歩らない業績に思えたりした。▼しかし御言葉に聞き続けるうちに、この疲れも重荷も、わたしたちには如何ともし難い、努力精進では解決されないことに気付かされた。主のもとに行き留まることによつてだけ解決される罪の赦しの問題だと。罪の赦しに気付かされたことは大切なことだ。▼何年も掲げられ、雨風に打たれてきた集会案内の看板。そこに福音の神髄とも言える宝が隠されていたのを知られたのは本当に幸いだった。



左、エリザ・タルカット (Miss Eliza Talcott)



右、ジュリア・E・ダッドレー (Miss Julia Elizabeth Dudley)

「街で出会う少女たちの多くは大変魅力的に見え、わたくしは彼女たちと話し合えるようになりたいと切に願っております。わたくしは、当地にありますがことに、またこの小暗い国に福音の光を与えるために何かをなし得ようという望みの故に、深い感謝を捧げるものでございます」(1873 年 4 月 12 日附タルカット書簡第 313 号)。

1873 年 3 月 31 日、2 人の女性が神戸の地に降り立った。Miss Eliza Talcott と Miss Julia Elizabeth Dudley、この 2 人がのちに神戸女学院を創立する。2 人は、アメリカのボストンに本部のある海外伝道団体 American Board of Commissioners for Foreign Missions (通称アメリカンボード) から派遣された初の独身婦人宣教師であった。

冒頭の手紙はタルカットが日本から初めて本部へ出した報告書簡の一節である。彼女たちは日本女性へのキリスト教宣教の使命を胸にこの地にやってきたのである。2 人はこの年秋に、早くも私塾を開く。日本人たちが「外国語だけで聖書を読めるようになることを願って」(1874 年 5 月 16 日附タルカット書簡第 315 号)、小さな私塾を運営する傍ら、2 人は各地に伝道のため赴いている。タルカットは播州へ。ダッドレーは三田へ。

「必ずやこの国は、まもなく、たくさんの子を『主の道』における指導者

や教師として擁することになりましょう。わたくしが三田から戻りましたとき、2、3 の母親がわたくしに申しました『自分たちの娘たちをあなたに連れて行ってもらいたい、そして自分たちにできるよりもよく、娘たちを教え導いてほしい』と。また、該地滞在中、日に 2 度会っておりまして少女たちは泣いて、わたくしについて来ようとさえいたしました」(1874 年 6 月 20 日附ダッドレー書簡第 71 号)。

ダッドレーの三田伝道の成功が、神戸に女子のための寄宿学校を正式に開校するための後押しとなった。1875 年 10 月 12 日、「少女たちが一層直接的な感化に与れますようなホーム」(同上)、「女学校」が誕生する。「単に宗教教育のみではなく、彼女たちが他の人々の教師となってやってゆけますような、世俗の訓練をも受けられる学校として」(タルカット書簡第 315 号)。

学校は順調に発展する。しかしタルカットもダッドレーも学校だけにこもっていたわけではない。積極的に家庭訪問や伝道を行なった。

「わたくしは学校の重要性を無視するつもりはございませんが、しかしながら、全く学校に参りませんでも、わたくしの時間を全て費やして余りあるほどの仕事を見出し得るのでございます。時には本当に、家庭の婦人たちの間での活動が有望なものですから、わた

宣教師からの声

番外編

アメリカンボードのパイオニア婦人宣教師

佐伯 裕加恵

(神戸女学院史料室)

くしがより広い視野に立ち、わたくし共の仕事は将来どれほど多くこの少女たちのお蔭を蒙ることになりますかを実感いたしませんと、学校での仕事にはほとんど満足を感じさせられなくなります」(1874 年 12 月 1 日附タルカット書簡第 316 号)。

創立から 5 年後、遂に創立者たちは学校を後任に譲って、市井の伝道に専念する決意を固める。1880 年、タルカットは岡山伝道区に移り、以後、休暇帰米をはさんで、鳥取、京都など日本各地で宣教活動が続ける。岡山では石井十次の岡山孤児院設立に影響を与え、京都では京都看病婦学校において宗教教育を受け持ち、濃尾大地震の際には被災地救援のボランティア活動に従事、広島では病院訪問伝道を行ない、「日本のナイチンゲール」と称された。

晩年は元同僚のダッドレーが開校した神戸女子神学校を拠点に宣教に尽力した。人々の求めに応じて救援に向かう姿を他の宣教師たちは「Emergency Evangelist of the Mission」と呼んだという。

もう一人の創立者ダッドレーは、女子伝道者養成の必要性を強く感じていた。

「わたくし共が、わたくし共の手に余ることをしてくれる婦人たちを養成するクラスの必要を感じております旨、アッキンソン氏が御報告申し上げまし

た。婦人たちのために働いてまいりました。わたくし共はこれまで、各人にこの活動に対する自分たち自身の責任を感じてもらおうと努力いたしましたし、婦人たちは立派にやってまいりました。けれどもこういうやり方では応じきれないほど大きな需要がございます」(1880 年 8 月 30 日附ダッドレー書簡第 77 号)。

そこで女子聖書学校 (のちの神戸女子神学校) を 1880 年に創立し、宣教師を引退、帰米するまで後進の指導に努めた。2 人が最後に拠点としていた神戸女子神学校は優秀な女子伝道者を世に送り、日本のキリスト教伝道に貢献した。

一方、2 人の去った女学校は発展を続け、日本における女子高等教育の実現をめざして神戸女学院 (Kobe College) になっていく。

2 代目校長となった Miss Virginia Alzade Clarkson は神戸の女学校の方向性の舵を、宗教学校から教育機関へと切った。そして、3 代目校長・院長 Miss Emily Maria Brown と 4 代目院長 Miss Susan Annette Searle は女学校を、女子高等教育機関へと育て上げ、5 代目院長 Miss Charlotte Burgis DeForest が完成させた。

今、神戸女学院には婦人宣教師はいないが、これら歴代婦人宣教師の志が今日に引き継がれている。

(Kyodan Newsletter より)



廣田 光司さん

教会と YMCA の懸け橋として



1952 年埼玉県出身。滝野川教会員。東京 YMCA 総主事。

1975 年、大学卒業後千葉 YMCA に就職し、現在まで YMCA 一筋である。

大学 3 年の終わりに、YMCA の活動に参加していた先輩が学内の掲示板に張った張り紙を見た同級生に誘われて、初めて YMCA の活動に参加した。翌年の夏には YMCA への就職を決断した。体育教師を目指し学んでいたはずが、YMCA での活動により魅力を感じるようになり、電光石火の決断であったと振り返る。

就職一年目に、当時の総主事に誘われて、初めて教会の門をくぐった。日曜日に仕事があることも多く、すぐに教会に定着とはいかなかったが、ある牧師とある女性との出会いによって

2014 年 11 月 30 日カトリック教会・日本聖公会・日本福音ルーテル教会合同礼拝に招待された。2000 年の教会の歴史の中で、20 世紀は「エキュメニカルの世紀」と呼ばれ、カトリックにおいては 1964 年に「エキュメニカルに関する教令」が出された。その教令には「相手を理解するより『断罪』しようとする姿勢が先行した過去の失敗を反省し、キリストの福音に忠実な教会形成に向かって踏み出す決意を示し、ローマ・カトリック教会として、その方針を詳述する」で記されている。

三教会合同礼拝に招かれて

ねて来た。合同礼拝に先立ってシンポジウムが開催されたが、パネラーから「違いを指摘しあったら対話は一日で終わる。しかし、どこが同じかということを確認しあ

このエキュメニズム教令 50 周年を記念して「カトリック教会・日本聖公会・日本福音ルーテル教会合同礼拝」が東京カテドラル関口教会・聖マリア大聖堂で献げられた。3 つの教会は粘り強く対話を重

つて議論したから今日まで対話をなし続けることができた」と述べ、その結果が報告された。ニケア・コンスタンチノープル信条を確認し、洗礼の相互承認がなされた。カトリックが中心の合同礼拝は感動した。なお大きな違いがあったとしても一つ思いになって礼拝を献げることができる。この礼拝から一致の道が開かれていく。礼拝の最後の所で「ニケア・コンスタンチノープル信条(カトリック口語版)を告白した時、感動し心が熱くなった。

(教団総会議長 石橋秀雄)